地域密着型サービス事業者　自己評価表

（ 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ）

事　業　者　名	株式会社　恵み野介護サービス グループホーム　だんらん紋別　2階	評価実施年月日	平成19年5月8日
評価実施構成員氏名	管理者 兼1F介護主任　小野萬里子 ホーム長 兼2F介護主任　小松　博文		
記　録　者　氏　名	小　松　博　文	記　録　年　月　日	平成19年5月22日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	各フロアや事務所等に理念が掲げられており、いつでも目に付くように掲示してある。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を実践するための職員集団として、職員共有の一年間の目標となる「スローガン」を職員全体で考え掲げ、少しでも実践できるようにしている。また、職員の個人目標も掲げている。理念については、会議で復唱している。		理念を実践する福祉集団として「スローガン」、個人のスキルアップを目標としての個人目標が設定されている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族には、入所申し込みの際説明をしているが、それ以降については行われていない。また、地域の人に対しての説明は、パンフレットなどを通じて理解をしていただいているが、実際に直接お会いして「当社の理念はこういう理念で・・・」というふうな説明まで行っていない。	○	家族については、今後家族会を立ち上げることを目標に多方面において説明や協力をお願いしていきたい。また、地域については、認知症への理解を広めていく努力をしていく一方で、説明と理解を求めて生きたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所との付き合いは朝の挨拶から散歩時の挨拶、物のやり取りや雪かきまでごく普通に行われている。向こう三軒両隣の付き合いが出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内のコミュニティーセンターに出かけていったり、地域の行事に参加することなど行っている。	○	当ホーム内にこもることが無いようにしていきたい。昨年婦人部の方とお話をさせて頂いた時に「勝手に入っていいのかどうなのか分らない」（入りずらい）というイメージをもたれていた方が多く、そのことに関しては説明をし、何度か遊びに来ていただいたが、数ヵ月後から遊びに来ることが無くなった。近所の集会の場として利用していただけるよう工夫をしていきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	行っていない。	○	地域との信頼関係、無くてはならない老人福祉施設として、認知症の理解を広める運動などを行って生きたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を受けた後、要改善項目について再検討。改善できるところから取り組んでいる。		
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で出た内容については、貴重な意見としてとらえ改善が必要な事については改善している。	○	昨年9月からスタートし、会としては5回を数える、まだまだお互い顔を見合わせる場面が多い中で、地域の方との共通の関心ごとをテーマに深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	当事業所のホーム長は市の生活福祉部及び包括支援センターの委員を務めている他、気軽に連絡を取り合っている。月1回行われているケア調整会議にも参加をし、意見の調整を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	市で開催された権利擁護の研修に参加しているほか、運営推進委員の中に市の権利擁護委員を配置している。さらに理解を深めるとともに、必要な人には活用できるように提供していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	ホーム内での研修やそれにまつわる関連記事などを掲示することにより理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については、その際、管理者、ホーム長、入居者本人、家族の代表が顔を合わせる中で、契約書を声に出して読み上げ、説明や理解に努めている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんからの意見については、直接の聞き取り、苦情ボックスの活用を基本に出てきた意見や苦情については月1開催されているフロア会議や全体会議などで検討し改善している。	○	苦情処理委員会を設置しているので活用していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族への報告手段としては、電話連絡の他、月最低1回の訪問などまめに取るようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの直接の聞き取りや苦情ボックスの活用などで改善されている。家族が遠慮なく申し出てくれるので助かっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロア会議、2ヶ月に1回の全体会議、年2～3回の個別面接や職員アンケートの実施など職員からの意見や要望は十分反映できていると思う。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	フリーの職員を配置した体制や、行事開催等による職員増希望など問題なく対応されている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は無く、離職の場合は個別に挨拶するなど混乱が起こらないよう安定された運営が行なわれていると思う。	○	離職の自然現象（介護職離れ）や介護職員不足など歯止めをかけるにはどうしたらよいか検討していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員育成に関して計画を持った取り組みは行なわれていないものの、自分の事業所のレベルや自分自身を知るという観点から他グループホームとの交流会や勉強会の参加、グループホーム協議会などの研修会に参加している。また、ジョブトレーニングの一環から年2，3回のホーム長面接を行ない自分自身を見つめ直していただいている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	遠軽、紋別地区のグループホームが集まり、勉強会や代表者相談会などが毎月行なわれている。	○	グループホーム協議会網走ブロックを立ち上げていく中で横の連携を広めて生きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の休憩室などはビデオ、テレビ、冷蔵庫、ベッドなどが完備されており十分にくつろげる空間の配慮がされている。また、親睦会を通じての職員旅行など企画されている他、忘年会なども豪華に行なわれている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	福祉業界の情報の開示や提供を行なうなど、けして現況の埋もれることが無いように各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初期の相談体制として本人に来所していただき見学、説明にて理解していただくことに努めている。	○	ケースにより本人より家族の意向が強い場合があるので、今後検討していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初期の相談体制として必ず本人、家族に来所していただき見学、説明を行い「グループホームとは？」というところから理解をしていただいている。また、グループホームは当事業所だけでなくほかにもあることを説明し、入所を決める前にたくさんの福祉事業所を見学されることを薦めている。	○	選ばれるグループホームになるよう質の向上に努めたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。他の事業所のサービス利用の助言から紹介まで行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お試し利用や日帰りなど、入所の際は徐々に馴染める様に家族の協力を得ながら対応している。	○	実費による施設利用、ショートでのご利用、ミニデイサービスなども視野に入れて検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	海育ちである方が多いことから魚のさばき方、畑を専門にやっていた方などからやり方の助言を受け取り組んでいる。むしろ支えていただいているという考え方のほうが強い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	まめな電話連絡、手紙の交換、ホーム便り、家庭訪問、行事等への参加依頼を通じ関係性を築いている。	○	利用者さんによっては、徐々に家族との関係が遠のいていくことを強く感じる家族もあるため「何とかしたい」と思う。家族会設置を目標に、行事等「何かあるときに用を足す」という家族関係にならないよう検討していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会の依頼、行事への参加依頼、外泊の依頼など家族関係が希薄にならないようお願いをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が馴染みとしていた場所などに出かけてみたり、利用したりしている。	○	さらに深めるため、本人の親しかった人を訪ねるなど気軽に交流が出来るシステムを整えたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常の生活を通じ、役割みたいなものが自然に出来上がってきており、掃除一つとっても掃除機担当、モップ担当、雑巾担当などが決まっている。時にトラブルもあるが、良い関係性が築きあげられている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族からの要望があれば関係性を継続している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	完全かつ職員全員が把握に努めるに至っていない。	○	センター方式を基礎として、もう一度一人ひとりの思いや意向の把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	完全かつ職員全員が把握に努めるに至っていない。	○	センター方式を基礎として、もう一度一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	おおむね理解できている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は作成され家族への説明は行なわれているが、話し合いにまでは至っていない。それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画になっていない。	○	それぞれの立場の人が話し合える場「ケア会議」などの導入を視野に今後取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直し、家族への説明は行なわれているが、話し合いにまでは至っていない。どちらかといえば、ホーム側からの意見が強いように思われる。	○	それぞれの立場の人が話し合える場「ケア会議」などの導入を視野に今後取り組んでいきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録や連絡ノートなどを使い情報の共有化に努めている。	○	個別記録用紙の変更を行なうとともに内容のある記録に仕上げていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能ではないので、「多機能性を活かした」という観点からすれば柔軟な支援をしているとはいえない。	○	ショートやミニデイなども検討してみたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	公的な施設の利用や催しの参加によりお世話になっている。	○	SOSネットワークなどシステムは設置されているが、消防や警察との関わりが遠いように思える、春や秋などの運動中に当ホームに来ていただきお話などをしていただこうと思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在のところ本人の意向等はないが、他ケアマネージャーや他サービス事業者との話し合いは行っている。対応はできる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが今年の4月に立ち上がったばかりということで、まだ当ホームホーム長が役員ということから会議等を通じ、協働しあう体制を構築していく。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院、馴染みのドクターなどと相談しながら対応することができている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	新研修医制度により地方の医療は衰退している。紋別も例外ではなく専門医が週1回毎週ドクターが変わる状態である。お互い理解し、相談できる状態になるよう願うばかりである。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所にはパートも含め2名の看護資格を持った方が配置されている。日常の健康管理については相談しあいながら行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者さんが入院したとしても病院任せにせず、2日に1回の面会や身の回りの支援など「入院しても隣人である」気持ちを大切にしている。病院の関係者との情報交換も密に行われている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	場当たり対応で終わっている面が多い。	○	この問題については、今年度当ホームでの最重要課題に掲げられている。利用者を支援していく立場として事業者、管理者、職員、家族が一堂に会し、じっくりと話し合う機会を設けたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	行われていない。	○	この問題については、今年度当ホームでの最重要課題に掲げられている。利用者を支援していく立場として事業者、管理者、職員、家族が一堂に会し、じっくりと話し合う機会を設けたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族からの情報はもちろんのこと、担当ケアマネージャーや医療関係、本人が以前利用されていた事業者との情報交換も行われている。また、住み替えに対する環境面のダメージ防止対策として馴染みのものを持ち込んでいただくようお願いしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーにかかわる問題や個人情報にかかわる問題についてはデリケートに扱うようにしている。きちんと管理もされている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員との馴染みの関係からお互い物を言いやすい関係性が構築されている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合を優先することは無いが、食材の購入や受診などこなさなければならないことが多く、必ずしも希望に添った支援をしているとはいえない。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	なるべく本人が馴染みとしている店の利用をしているほか、白髪染めなど職員と楽しみながら行っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の簡単な下ごしらえや後片付けなど利用者さんと職員が協力して行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコを楽しまれる方は現在いない。飲み物やおやつなど自分で選んでいただいたり、手作りおやつを楽しんだり、季節の応じたお菓子などを楽しんでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用などは最低限必要なものとしている。排泄チェック表を活用し失敗の少ない支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	けして無理強いはせず、本人の気持ちや健康の状態に合わせて入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者さんのその日、その時の状態や変化により休んでいただけるよう取り組んでいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。			

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で管理できる人は自己管理、その他の方は事務所管理とし必要なときの出金し使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や食材の買い物、理美容の利用、外出など本人の希望に沿って家族と協力しあいながら支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の希望等、聞くことは行っているが、遠方を希望する方も多く十分な支援はできていない。	○	家族等とも調整を行いながら実現できるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の要望により対応できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会については自由とされており、家族の希望や遠方から来る方への対応として一緒に宿泊できる体制が整っている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解されており、行われていない。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵については、夜9時以降防犯に対する施錠対策のみの対応としている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員が同じ場所に固まらないこと、視覚に入らないこと、お互い声を掛け合うことを約束とし、利用者の安全に配慮している。	○	朝方に転倒の報告が多いことから、利用者重度化も考慮しながら職員配置も検討していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	今までそのような必要性がない。	○	今後そのような状況が生じたとしても、無くすことだけで解決しないようにしたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者さんのその日、その時の状態や変化を共有する事により未然に防止できるよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的な訓練は行われていない。	○	今後、緊急蘇生法などの研修を重ねたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々の協力が得られるような働きがけがされていない。ほか、避難訓練が十分行われていると思えない。	○	自衛の訓練を重ねるほか、近隣の方との連携を重ねて生きたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	利用者本人に起こり得るリスクについては家族、ケースによりドクターも交えて説明や話し合いがもたれている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員間の引継ぎや情報を共有する事により早期発見と対応が実践されている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診の対応や薬の準備を通じ疑問に思うことはドクターや薬剤師と相談することができている。また、薬の用法なども記録に残るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤だけに頼ることなく体操や散歩など体を動かすことに努めると共に食事にも工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを実施している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や内容、水分の摂取量や内容		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	感染症に対する予防や対応がマニュアル化されている。また、実行もされている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板の分別使用やふきん消毒などの衛生管理、食品などの消費期限など細かな注意を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の方が散歩中に休めるようにベンチを出したり、憩いの場としての利用ができるように花を植えるなど自然に親しみがわくような演出がされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や観葉植物、熱帯魚など自然とのふれあいを大切にした環境設定をしている。	○	消防法との絡みもあるが、生活くささが出るような空間の演出をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ひとりで過ごせる居室や大勢で過ごせるリビング、ごろ寝をしながら過ごせる和室など本人のその時の状況に応じた空間利用ができるように整備してある。また、和室では少人数で楽しめるような娯楽、囲碁・将棋などが楽しめるようになっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のレイアウトについては安全性を重視し、本人と家族に任せている。持ち込むものについてもなるべく本人と馴染みが深いものをとお願いをしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は朝の掃除を行うときは必ず窓を開け、温度の調整は暑すぎず寒くないように調整している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。			
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者さんがわかるようにトイレなどの表示板を大きくしたり、居室の戸を色分けしたり、分りやすいよう説明文などを掲示している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの玄関周りには花壇やプランターなどが置かれ花を楽しめる環境にある。また、中庭では、ミニ畑があり第一農園や第二農園に出かけることができない方の身近な楽しみ、季節の野菜が育つ農園として親しみがあり、夏には花火大会やバーベキュー大会が行われる。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V．サービスの成果に関する項目

	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

当ホームは現役の盲導犬を導入してのアニマルセラピーを実践中である。人間にはない動物の癒らしさや、癒やしにより、より豊かな生活を送って頂こうと思っています。また、現況に対して満足しない職員集団としては、遠、近地区のグループホームの勉強会や交流会、代表者相談会などを通じ、自分の事業所だけ良いのではなく、地区全域を通じての高令者の幸せを考えていきたい。オピニオンリーダーとなれるよう視野を広く持って取組んでいきたい。常に前進です。